

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

① 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準

<適用種別>

「建造物群」および「記念工作物」

<登録基準>

- i) 岡山藩郡代津田永忠が関与した構築物の多くは国の文化財（建造物・記念物）として指定されている。特にわが国は勿論世界でも現存する最古の庶民教育施設である旧閑谷学校の講堂をはじめとする建築群や、岡山後楽園造営・児島湾北岸の大規模な干拓事業に関連する文化・土木遺産群には、随所に卓抜した技術が駆使され、またそれらは同時に芸術的・造形的にも高く評価され、人間の創造的才能の極致ともいえる遺産群である。
- ii) 児島湾北岸の干拓事業において、用水路と運河の機能を担って開削された倉安川の築造技術は、萩城下町（山口県）の藍場川開削の参考とされ、また閘門式を採用した吉井水門は、後に遠賀川水系（福岡県）の寿命・中間水門の見本となったといわれ、ともに当地の先進的技術が各地に伝播されたことが判明する。干拓地内に流入する百間川の治水対策として考案された大水尾と樋門による排水システムは、後に各地の干拓地でも採用され、また17世紀に築造された大多府漁港元禄防波堤においては、その自然に逆らわない形態が、わが国の防波堤構造の定石となった。このように、岡山藩政の初期における各種の土木工事で開発・蓄積された諸技術は、各地に伝播継承され、後世の技術革新に与えた影響は甚大である。
- iii) 岡山大学大学院馬場俊介教授（土木史）の研究によると、石造構築物の構成資産の内、倉安川吉井水門はわが国現存最古の運河閘門、田原用水水路橋は国内最大の石桁水路橋、大多府漁港元禄防波堤は国内現役最古（突堤、埠頭を除く）と評価される。これらの優れた実用土木構築物が、元禄年間を中心とする特定の時期、しかも限られた地域内に形成されたことは、技術史的に見て極めて稀なことであり、かつ、重要な事象である。
- iv) 旧閑谷学校は、寛文10年（1670）に創設されたわが国最古の郷学であり、備前焼の瓦で葺かれた講堂や儒教の祖孔子を祀る聖廟、周囲を取り囲む独特の石塀等、創学当初の荘重な遺構がほぼ完全な姿で残されるとともに、学校で使用された典籍類も含めて一体的に保存されており、わが国の教育史上、特筆されるものである。また、岡山後楽園は元禄13年（1700）に一応の完成を見た回遊式の大名庭園であり、岡山城の遺構とともに歴史的・文化的景観を形成している。土木遺産群については、17世紀後半の限定された期間内に建造された石造構築物が核となって残存し、なおかつ、そこには各種の石加工技術（備前積み、巻石、井桁構造）が複合的に使用されていることから、景観的・技術的にも類い稀な例として高く評価できる。
- v) 岡山藩郡代津田永忠が統括した技術集団のもとで開発・蓄積された土木技術は、藩主導の各種の土木建築事業で発揮されたが、その主たる事業が領民の生活・文化の向上を目指した干拓による新田開発等に係る実用的なものであり、それらの構築物は生活に密着した施設群として現在まで保存・継承され、地域の歴史的・文化的景観を形成している。

② 真実性・完全性の証明

本資産を構成する建造物群及び記念工作物のほとんどは、既に国・県等の文化財指定を受けており、歴史的・造形的及び学術的価値は証明されるとともに、文化財保護法等により適切な維持管理がなされ、良好な状態で保存されている。ただ、土木構築物の一部に関しては、現役の港湾施設として使用されることなどにより、後年に修復・補強を受けたものも含まれるが、形状・意匠・材質等は踏襲され、極力旧状の保全が図られている。

また、各資産の造営・築造に関しては、岡山藩政史料である「池田家文庫」（岡山大学附属図書館蔵）に当時の絵図・文書類が残存し、その真実性は証明される。

③ 類似遺産との比較

既登録の類似資産では、農業土木遺産としてオランダのベームステル干拓地やフィリピンのコルディリエーラの棚田群、また儒教・教育施設として中国の曲阜孔子廟、スペインのアルカラ・デ・エナレスの大学と歴史地区、ドイツのヴァイマールとデッサウのバウハウスとその関連遺産群、アメリカのシャーロットヴィルのモンティセロとヴァージニア大学等があるが、学校建築・庭園・土木構築物等の多岐にわたる分野で構成される本資産に類似する遺産は、国内はもとより東アジア地域にも存在しない。

また本資産群は、岡山藩郡代津田永忠という傑出した人物が指揮・監督した技術集団によって完遂された一連の事業であるという点に最大の特徴があり、他に類例のない文化・土木遺産と評価できる。